

※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

◎ 2 段階選抜実施状況

□ 第 1 段階選抜不合格者数は前期で大幅増加、中期・後期は減少
 大学別では、前期は東京大、中期・後期は宮崎大が最多

〔2 段階選抜実施状況(不合格者数)〕

	前期				中期・後期				合計			
	2023年度	2022年度	増減数	指数	2023年度	2022年度	増減数	指数	2023年度	2022年度	増減数	指数
国立大	2,803	2,396	+407	117	3,696	3,734	-38	99	6,499	6,130	+369	106
公立大	994	633	+361	157	975	1,373	-398	71	1,969	2,006	-37	98
合計	3,797	3,029	+768	125	4,671	5,107	-436	91	8,468	8,136	+332	104

〔2 段階選抜不合格者数の多い上位 10 大学〕

順位	前期				中期・後期			
	2023年度		2022年度		2023年度		2022年度	
	1	東京大	691	東京大	837	宮崎大	529	山梨大
2	東京工業大	438	東京都立大	367	大阪公立大	513	大阪公立大	681
3	福島県立医科大	338	一橋大	217	一橋大	471	奈良県立医科大	563
4	東京都立大	263	香川大	204	山梨大	429	一橋大	434
5	大分大	233	滋賀医科大	163	旭川医科大	412	東北大	349
6	一橋大	220	岡山大	157	琉球大	382	電気通信大	337
7	浜松医科大	195	和歌山県立医科大	121	奈良県立医科大	254	山口大	300
8	島根大	184	群馬大	103	秋田大	193	岐阜大	253
9	川崎市立看護大	174	福井大	94	東京都立大	188	鹿児島大	189
10	高知大	110	長崎大	89	千葉大	163	九州大	166
全体	3,797		3,029		4,671		5,107	

2 段階選抜における第 1 段階選抜不合格者数(不合格者には失格者を含む、以下も同じ)は、前年度は前期・後期ともに増加で、全体では 1,800 人以上増加しました。今年度は全体では引き続き 332 人の増加(104)でしたが、前期は 768 人の増加、中期・後期は 436 人の減少と増減が分かれました。

共通テストの平均点アップにより、前期では成績上位層を中心に強気な出願が行われたことがうかがえます。中期・後期は国立大では前年度上位 8 位の不合格者数だった岐阜大・医(医)<後>が廃止でしたが、新設の一橋大・ソーシャル・データサイエンス<後>で第 1 段階選抜が実施され、不合格者数は増加した前年度から微減に留まりました。一方で、公立大は約 400 人の 30%近い大幅減少でした。この結果、後期全体では減少で、前年度は共通テスト平均点大幅ダウンの結果、第 1 段階選抜通過を考えて、特定大学への集中がありました。共通テストの平均点アップによって出願大学が分散したことが減少の要因でした。

また、共通テストの平均点アップは、第 1 段階選抜を基準点で実施する大学・学部の志願者数増加に影響を与えました。以下のグラフは、基準点で第 1 段階選抜を実施する国公立大の学部・学科における志願者数の増減を前年度対比指数で示したものです。ほとんどの大学・学部で志願者数が増加しました。名古屋大・医(医)<後>は募集枠を(地域枠)から(一般枠)に変更したという特別な要因があり、名古屋大・医(医)<前>、横浜市立大・医(医)<前>などでは基準点の緩和が行われました。これに加えて、前年度の志願者数減少の反動と共通テストの平均点アップにより基準点をクリアできた受験生の増加が要因でした。

2023年度入試状況分析【国公立大】

※前年度の志願者数を100とする指数

※2022年度大阪公立大・医(医)は2021年度の大阪市立大・医(医)との比較

■ 2022年度/2021年度

■ 2023年度/2022年度

